

桜ヶ丘だより

鹿児島大学病院広報誌

Kagoshima University Hospital PR News



新教授の2人に質問しました！

特集

新教授紹介

看護部トピックス

B棟3階病棟 脳神経外科・口腔外科・口腔顎顔面外科

歯科診療部門トピックス

保存科「歯の詰め物も日々進化しています」

臨床技術部トピックス

臨床工学部門「生体情報モニタリングシステムで安全環境と現場の効率を高める」

©鹿児島大学病院基金への寄附者様ご芳名一覧

60
2022.9

鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科
神経病学講座 脳神経外科学分野

花谷 亮典 教授

(脳神経外科 部門科長、てんかんセンター長)

多岐にわたる脳、脊髄の神経系疾患をカバーする 充実の体制で地域医療を支える

ー第5代教授として教室運営に対する意気込みを教えてください。

脳神経外科学は、脳や脊髄の神経系疾患に対して高度な手術治療を行う分野です。対象とする疾患は、脳腫瘍や脳血管障害、薬の効かないてんかんやパーキンソン病などの脳機能疾患、脊椎・脊髄疾患、小児疾患、頭部外傷などです。当科は、臨床面においてこれら多岐にわたる領域をカバーすることに成功していますので、今後さらに発展させ、各部門リーダーが学会においてのオピニオンリーダーとして発信できるレベルを目指し、意識を高めていきたいと思っています。

ーさまざまな神経系疾患に対応できる専門スタッフ育成の秘訣は？

当科では、若手・中堅医師の国内外留学を積極的に進めてきました。大学・病院によって手がける内容は似ていても、数をこなす、視点を変えるという経験は、大きなステップアップの機会になります。また共同で何かをするきっかけになることもあります。海外からの留学生を積極的に受け入れてきていることも身近な国際交流となり、刺激になっていると思います。

ー最良の医療と同時に、いま医師のワークライフバランスの充実も求められています。

個人的には、働き方改革は自分たちが意識や体制を整え直すチャンスと考えています。当科は、急患があれば自分から遅くまで残ってくれたり、休日返上で駆けつけてくれるような、素晴らしい資質のスタッフに恵まれています。ただ、ライフワークバランスはかなり仕事に偏っていると思います。近年は女性の入局者も増えていますが、男性も女性も脳外科医を務めながらゆつくりと生活を楽しんだり、一緒に育児をしたり、という環境が当たり前になればと思います。

(聞き手：鹿児島大学病院 広報担当
副病院長 宇都 由美子 特任教授)

教えて！素顔の 花谷先生！

Q ご趣味、気分転換は？

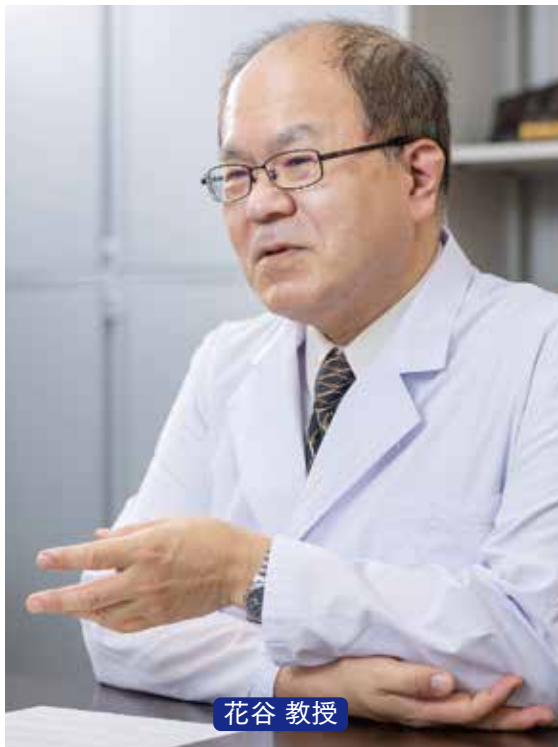
A 学生時代から山岳部に所属し、屋久島には結構通いました。5、6年前、医局員と富士山に登ったことが思い出深いです。

Q 先生にとって脳とは？

A 人を人として司る、ナイブで神秘的な器官だと感じます。やりがいと緊張感が常に背中合わせです。

Q どんな雰囲気の教室を目指していますか？

A 明るく、楽しく、のびのび、それぞれの興味を伸ばすことのできる教室でありたいです。



花谷 教授

Profile 為すべきことを為す

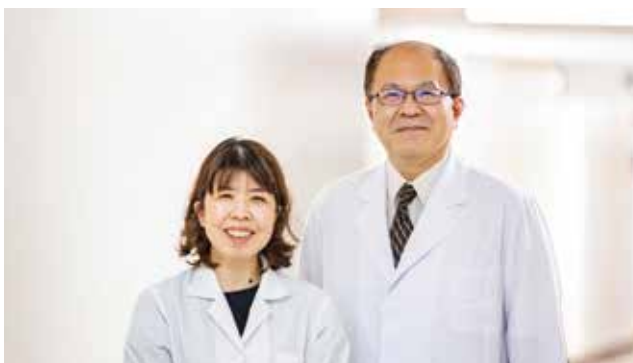
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
神経病学講座 脳神経外科学分野

花谷 亮典 教授

(脳神経外科 部門科長、てんかんセンター長)

1990年 鹿児島大学医学部 卒業
1998年 広島大学 大学院医学研究科 修了 博士(医学)取得
1998年 広島大学 医学部 脳神経外科学講座 助手
2003年 フランス国立保健医学研究機構 博士研究員
2005年 広島大学病院 脳神経外科 助手
2008年 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 脳神経病態制御外科学分野 助教
2010年 鹿児島大学 医学部・歯学部附属病院 脳神経外科 講師
2010年 トロント小児病院 博士研究員
2013年 鹿児島大学 医学部・歯学部附属病院 てんかんセンター長
2019年 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 神経病学講座 脳神経外科学分野 准教授
2022年 同 教授

資格 ●日本脳神経外科学会 専門医、指導医
●日本てんかん学会 専門医、指導医
●日本脳卒中学会 専門医、指導医
●日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
●日本臨床神経生理学会 脳波分野専門医、術中脳脊髄モニタリング分野認定医
●日本臨床薬理学会 指導医



(左) 花田朋子 助教 (右) 花谷亮典 教授

(写真撮影時のみ、マスクを外しています。)



田中 教授

Profile

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
腫瘍学講座 顎顔面放射線学分野

田中 達朗 教授

(顎顔面放射線科 部門科長)

1996年 九州歯科大学歯学部 卒業
2000年 九州歯科大学 大学院歯学研究科 修了 博士(歯学)取得
2000年 九州歯科大学 助手
2004年 九州歯科大学 講師
2015年 九州歯科大学 准教授
2018年 The University of Hong Kong, Faculty of Dentistry, Oral and Maxillofacial Radiology (Honorary Associate Professor)
2021年 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 腫瘍学講座 顎顔面放射線学分野 教授

資格 ●日本歯科放射線学会 認定医、専門医、指導医
●日本歯科放射線学会 口腔放射線腫瘍認定医
●日本口腔診断学会 認定医、指導医

明鏡止水



顎顔面放射線科のスタッフ

鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科
腫瘍学講座 顎顔面放射線学分野

田中 達朗 教授
(顎顔面放射線科 部門科長)

最新の医療機器を駆使した高精度の画像作成を通じ、 高度な医療をサポート

ー顎顔面放射線科について教えてください。医科の放射線診療との違いは？

当科では歯と顎の病気について、レントゲン検査やCT、MRIなど最新の医療機器を駆使した画像診断による診療を中心に行っています。具体的には、むし歯や歯周炎、歯並びをなおす、入れ歯やインプラントの治療などの歯を中心としたものから口腔領域^{のうばう しゅ}の嚢胞、腫瘍などの診査、診断です。医科における放射線診療、特に耳鼻咽喉科の領域と基本的な部分で大きな相違はありませんが、歯科は口腔や歯の中など、より狭い範囲を対象とする領域です。微細な部分までチェックし、きめ細かな治療

に合わせた画像を作成、提供するところが当科の特徴と言えます。

ー画像処理の技術は日進月歩と思います。

放射線科という学問自体、加速度的に進歩する理工学系の情報技術を導入して成り立っています。画像診断分野はもちろん、放射線治療装置、技術も加速度的に進歩し続けているので、我々自身の知識、スキルも「昨日と同じ」というレベルに留まるのではなく、常に最先端の技術を学び続け、診療に生かすことができるよう研鑽を心掛けています。

ー病院経営および地域への貢献につ

いてのお考えを教えてください。

放射線科医は放射線治療においては主治医を務めることもあります。他科からの依頼によって画像検査や放射線治療を行うケースが大部分です。CT、MRI、PETなどの3次元的画像については、撮影データを基に各科が有効利用できる形に画像を処理、提供することも我々の使命です。各診療科のニーズについても的確に具現化できるようスキルアップを図り、学内外に門戸を開き、連携を図っていききたいと思います。

(聞き手：鹿児島大学病院 広報担当
副病院長 宇都 由美子 特任教授)

教えて！ 素顔の 田中先生！

Q 少年時代に医療を目指した動機は？

A 富山県の港町で生まれ育ち、医療とは無縁の家業だったのですが、ブラックジャックや医療ドラマに憧れて。ミスターな動機です。

Q 歯学の中でも顎顔面放射線科を選ばれたのは？

A パソコンや機械が好きで、高性能の機器やソフトを駆使して行う画像処理の仕事に魅力を感じたことが一番です。

Q ご趣味など、仕事以外の気分転換は？

A 車やバイクのドライブも好きですが、コロナ禍で外出の機会が減ったので、今は医局員と過ごす時間が一番楽しいです。



「チーム内の多様な職種をつなぎ、橋渡しが看護の役割」

B棟3階病棟

「患者さんの持っている力を最大限発揮できるように取り組んでいます」

B棟3階は、脳神経外科、口腔外科、口腔顎顔面外科の病棟です。

脳神経外科では、脳腫瘍や脳血管疾患などを患う方々の検査や治療が行われ、多くの患者さんが機能回復のためのリハビリを必要としています。私たち看護師は、医師・歯科医師・理学療法士・薬剤師・ソーシャルワーカーなどの多職種と連携し、患者さんの社会復帰を目指した看護を提供しています。専門的な知識を持った脳卒中リハビリテーション看護認定看護師を中心に、患者さんの持っている力を最大限発揮できるようにスタッフ全員で取り組んでいます。今年度は早い時期からのリハビリ看護を充実させることを目標に頑張っています。

また、鹿児島大学病院にはてんかんセンターが設置されており、当病棟ではてんかんの患者さんも受け入れています。実際の発作の様子を見て診断や治療を行うために、脳波を持続的に記録する長時間ビデオモニタリングの検査を行っています。入

院中の患者さんが安心して検査を受けられるように環境を整え、てんかんの発作が起きた時に適切な対応ができるようにトレーニングしています。

口腔外科や口腔顎顔面外科には、主に口腔内の外科的処置を受けられる患者さんが入院されています。口腔ケアは患者さんのQOLの維持や向上に大きな役割を果たしています。私たちは1人ひとりの症状に合わせた口腔ケアの指導を行っています。また、症状や処置の内容によっては、「食事をする」「話をする」など日常生活に障害が生じる場合があります。口がうまく開けられない患者さんには食べやすいように食事形態の工夫をするなど患者さんの状況と気持ちに寄り添った看護の提供を心がけています。

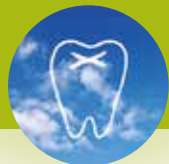
退院後に、「こんなに元気になりました!」と病棟に立ち寄り声を掛けて下さる患者さんがいらっしゃいます。患者さんの笑顔や元気になられたお姿が私たち看護師の大きな励みとなっています。これからも患者さんの入院生活を支えていけるように頑張っていきます。



私たちが病棟でお待ちしています



口腔ケアの指導の様子



歯科診療部門

Dental Division's Activity

口腔の健康から全身の健康を守る



臨床技術部

Division of Clinical Technology

診療部門と連携し、支援を行う専門職種集団

むし歯の治療材料

保存科「歯の詰め物も日々進化しています」

むし歯に対して、昔から詰め物やかぶせ物で治療が行われています。治療の流れは大体同じですが、そこに使われる材料や方法は日々進歩しています。例えばプラスチックの白い詰め物の場合、以前は30種類近くの色の中からその歯に合うものを選んでいましたが、最近では1つの材料で自然に周りの歯の色となじむ材料も開発されています。他にも新しい技術を応用してセラミックとプラスチックが合わさった白い素材から詰め物やかぶせ物を製作する技術も導入されています。使える状況に制限はありますが保険適用になりました。すでに皆さんの歯にも使われているかもしれませんね。



中央の歯はどこが詰め物かわかりますか？正解は右の写真の点線部分。

バイタルサインの異常をすぐにお知らせ！

臨床工学部門

「生体情報モニタリングシステムで安全環境と現場の効率を高める」

生体情報モニタは、心電図や脈拍、呼吸、血圧、経皮的動脈血酸素飽和度(全身に運ばれる血液の酸素濃度)などのバイタルサイン(生体情報)をリアルタイムに測定・記録し、容体に異変があれば、アラームで知らせる医療機器です。当院では、生体情報モニタとシステムサーバーを連携し、波形・計測値データの長期保存や電子カルテへのデータの取り込み、ナースコールとの連動を行っています。また、機器管理に関する知識を活かし、院内モニタアラームコントロールチームの一員として参画し、アラームレポートの作成や設定の整備を行い安全環境の構築に努めています。



モニタアラームコントロールチームは多職種で構成され、生体情報モニタ管理と運用について適切な実施を目的としています。

鹿児島大学病院基金への寄附者様ご芳名一覧

鹿児島大学病院基金へのご協力を賜りました皆様に心よりお礼申し上げます。お受けいたしました寄附金は、基金の目的に沿って有意義に活用させていただきます。ご寄附いただきました皆様方への感謝の意を込めまして、ご芳名等を掲載させていただきます。

なお、ご意向により、ご芳名等の掲載をご希望されない寄附者様につきましては、掲載いたしておりません。今後とも、鹿児島大学病院へのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和4年9月 鹿児島大学病院長 坂本 泰二

令和3年10月から令和4年7月までの寄附者様(順不同・敬称略)

B棟6階 鹿児島大学病院 希望の寄附者様	【百萬元】 株式会社アーステック 【団体等】 希望の寄附者様	【百萬元】 十九名 【掲載を希望されない寄附者様】	吉留 正次 三井 薫 渡辺 京子 小原 厚子 茂岡 和英 南 隆 垣花 泰之 堀下 千鶴 佐藤 真紀子 西谷 佳浩 佐藤 雅美 大脇 哲洋 中村 智子 希望の寄附者様	【ご芳名のみ掲載希望の寄附者様】 鮎川 秋徳 又木 雄弘 【二萬元】 西元 まり子 稲田 年輝 濱田 基治 前 哲二 【三萬元】 榎田 英樹 【五萬元】 嶽崎 俊郎 山崎 正人 【十萬元】 伊地知 藤雄 【三十萬元】 宇都 忠和 【五十萬元】 手塚 善久 【百萬元】 個人

鹿児島大学病院基金へのご寄附のお願い



お問い合わせ先 鹿児島大学病院 総務課 企画・広報係
TEL: 099-275-6692 FAX: 099-275-6846
Eメール: kufsyomu@kuas.kagoshima-u.ac.jp
基金ホームページ:
<https://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/fund/>

大学病院では、外来及び病棟における患者さんのお世話などをしていただくボランティア活動員を常時募集しています「鹿大活き活きボランティア」にご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先 鹿児島大学病院 医務課 医療安全係 TEL: 099-275-5157

表紙の写真

(上段写真中央) 脳神経外科学分野 花谷亮典 教授
(下段) 顎顔面放射線学分野 田中達朗 教授



鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより 60号

発行日 / 2022(令和4)年9月発行 発行 / 鹿児島大学病院広報委員会
〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6710 URL: <http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>

